

～すべての人のために～つながりの輪支えあい事業実施計画（案）のパブリックコメント 質問回答表 Vol.1

| 回答番号 | 質問分野 | 質問趣旨 | 回 答 | 回答日 |
|------|------------------------|---|---|-----|
| 1 | つながりの輪支えあい事業 企画提案書等 | 西尾市手話言語条例 第10条（手話を用いた情報発信等） 第2項「市は、ろう者が手話による情報を取得することができる環境を整備するため、手話通訳者の積極的な派遣、手話を必要とする者からの相談に的確に応じるための体制の充実等に努めるものとする。」に基づき、地域生活支援拠点等に求められる相談機能において、手話を必要とするろう者でも安心して相談できるようにしてほしいです。 | 市では地域生活支援拠点等の機能として求められる土日休日・夜間の連絡体制は整備できていませんが、市が事業所に委託している相談支援業務や障がい福祉サービスの計画相談等において、手話通訳が必要な場合は福祉課への申請により手話通訳者を派遣いたします。 | |

| 回答番号 | 質問分野 | 質問趣旨 | 回 答 | 回答日 |
|------|---------|--|--|-----|
| 2 | 地域づくり事業 | <p>本計画の策定に敬意を表します。苦しみを抱えた方の居場所として機能することを期待しております。</p> <p>意見として、「苦しみの予防」という視点を地域づくり事業に明確に位置づけていただきたいと考えます。</p> <p>苦しみが深刻化してから支援するのではなく、地域の中で互いの変化に気づき、適切につなぐ力を育むことが、孤独・孤立対策や自殺予防の基盤になると考えます。</p> <p>また、苦しみは排除すべきものではなく、適切に関わることで学びや成長につながる側面もあります。その視点を地域全体で共有することが、真の支え合いにつながると思います。</p> <p>そのため、誰もが苦しみに向き合う姿勢と関わり方を学ぶ「ユニバーサルホスピスマインド教育」の視点を取り入れ、子どもを含む各世代が、声になる前の苦しみに気づき、必要時に専門職へつながれる地域づくりを推進していただきたいと思います。（参考：内閣府 孤独・孤立対策モデル調査）</p> | <p>多様な苦しみと適切に関わるための伴走型支援に取り組むためには、解決が難しい苦しみを抱えていても、穏やかでいられる心のありようや、苦しむ人との関わり方（ユニバーサルホスピスマインド）の視点をとりいれた地域づくりの推進は大切だと考えています。しかし、福祉分野にはあまり浸透していないため、つなサポでも機会があれば学んでいきたいと思えます。</p> | |